

## 医療格差

岐阜市立藍川東中学校 3年  
後藤 大智(ごとう だいち)

皆さん、病気にかかったときや、怪我をしたときは、まず、どこに行きますか。ほとんどの人が「病院」に行くと思います。病院に行ったら、自分の病気の薬をもらったり、検査や治療などが受けられたりする。しかし、これは当たり前のことでしょうか。近くに病院があること、医師がいるということは、当たり前なのでしょうか。僕はそうではないと思います。世界の人々の中には病院に行けない人、治療を受けられない人がたくさんいます。そして世界の医療レベルについての順位まであります。ちなみに日本は12位となっていました。このことから、日本の医療レベルは、高いということが分りますね。

医療にこんなことが起こっていて良いのだろうか。順位が出ている時点で「医療格差」が起こっているのではないのかと、僕は気づきました。今回みなさんにも「医療格差」について一緒に考えてもらいたいです。

世界各国では、エイズ、肺炎、マラリア、結核、はしかなどの感染症で多くの人が命を落としています。しかしこれらの感染症は、予防することが可能で、治療法も明確にわかっています。ではなぜ、多くの人がこれらの感染症で命を落としてしまうのでしょうか。一つの原因として、僕が知ったのは、近くに病院がなく、治療が受けられない国や地域があることです。周りに医師がいなかったり、治療をする技術をもっている医師がおらず、治療が受けられなかつたりなどの理由があることも知りました。

まさに「医療格差」というものが存在してしまっているのだと思います。さらに「医療格差」について調べていくうちに、新たなことが分かってきました。それは「医療」と「平均寿命」が関わっているということです。日本人の平均寿命は84.3歳で世界1位となっています。逆に平均寿命が1番低い国は西アフリカのナイジェリアで、52.9歳です。つまり、日本とナイジェリアの平均寿命はなんと、約30歳も差があることになります。僕は、原因の一つとして、ナイジェリアの医療水準が低いのではないかと考え、ネットで調べてみると、やはり予想は的中していました。ナイジェリアでは、十分な医療を受けることができないだけでなく、教育、臨床、設備レベルも低いことがわかりました。それに比べ、日本の医療は海外からも高く評価されています。このように、平均寿命からも医療格差との関わりがみえてきます。

今日僕がこの場で伝えたいのは、医療格差を無くしていくために、日本を含める先進国が治療を受けられないなどの問題、悩みを抱え込む国に、医療の遠征や支援などを積極的に増やしていくべきではないかということです。国によって文化や環境が違うのは理解できますが、身近になくてはならない医療に差があるのはおかしいと思います。はっきりいうとおかしいと思います。先日、僕はある動画を視聴した時に、病気なのにすぐに治療を受けることができず、苦しい思いをしている人がいるのを知って、心がとても痛みました。この状況を自分、もしくは自分の親しい人の立場に置きかえたとしたら、僕はいてもたってもいられなくなりました。では、医療格差を改善するために、今の僕ができるることはなにか。それは、もっと世界で起きていることを知ることだと思います。

僕は、英語が好きなので、英語をたくさん勉強して、海外に行きたいと考えています。外国の文化を知るだけでなく、今世界で起きていることを自分の目で見てみたいです。僕にはまだはっきりとした夢はありませんが、世界を見ていくうちに僕にできることや、やりたいことが見つかるかもしれません。まずは「知ることからはじめていきます。みなさんも、世界で起きていることに関心をもち、何か小さいことでも、自分にできることを考えてみませんか。